

最近電報

横田法相逝く

司法大臣横田千之助氏肺炎の爲

め逝去(四日東京發)

伊太利美術展覽會

伊國首相ムソリーニ氏は今秋東

京に於て開催せらるべき伊國美

術展覽會には出來得るだけの援

助を客の旨を聲明し文相は之

が爲めに伊太利古來の美術品を

送附するやう準備中なりと

(四日羅馬發)

トロツキー重患

黒海よりの通信に依れば勞農前

代表トロツキーは胃癌を病みて

全地に療養中此程切開手術を受けたが經過不良生命危篤なりと

(三十一日モスクワ發)

ア教授の危禍

エウゼニア、ディクソンなる女

アインスタイン教授を射殺せん

と圖り其邸宅に侵入したる目的を達せずして警官の爲め捕はれて勢農大使を殺害せん企てるも此女なりと(伯林發)

日露修交と羅國

巴里來電に依れば首相エリオ氏

は羅馬元首アントノ氏が過

だに羅馬尼を切かすのみに止ら

ず歐洲全般の脅威なり該交渉に於て日本は極東に於て露西亞との兵を交へざるを條件として漁業並に油田探査権を得たりとの聲明に對し深く憂慮居れど

(紐育發)

レニン記念祭

去一日ハドソン公園に於て共産

黨員一万五千集合盛大なるレニン記念祭を舉行したるが席上党員は突然起つて勢農ロシアの大立物なるレニンの人格を稱揚し且全主義の爲めには如何なる犠牲をも辭せず努力すべき旨誓約して散會せりと(紐育發)

内 外 雜 訊

新内相就任

前内相ジョン・ルイス・アルベスの辭職後々任問題につき久しく難い事情がある現に南米第一の工業國でありながら右翼としているが去る五百愈々就任した氏は

オソ・ベンナ、ジニオール氏

一八七九年前大統領アフォンソ

ペソナ氏を父としてミナス州サ

ンタ、バルバラ・デス氏がミナス州

六歳の働き盛りであるペロオリ

是に於て油田の開拓は伯國の爲

其消費高の五分の一も發掘し得

め當面の大急務であり之がため

又彼の豊富な水力と雖も今直

に一般に利用することは出来ぬ

も忽せに出來ぬ問題でも既に

米人は遅早く此處に着眼し着々

該事業の實施に努力してあれ

ば遠からず彼等に依つて自覺し

き發展を見ることならんと

老生今般左記の處に假住居を定め候間此段辱知諸君に謹告候也

Raa Colonel Duleidio 70

Estado de Paraná

水野龍

千魚辛K削節

水野龍

干魚辛K削節

水野龍

大阪商船會社

日本郵船會社御用達

國際汽船會社

各艦船食糧並二松具貿込業

ヤマカ合資商會

サントス市

マルチン・アフォンソ街四十一番

小瀬合同經營

前田

セントラル一九七三番

サントス市

マルチン・アフォンソ街四十一番

ホス江

麻州

カンボグランデ驛

テたそ

宮平市榮

ル

水野龍

千魚辛K削節

水野龍

大阪商船會社

日本郵船會社御用達

國際汽船會社

各艦船食糧並二松具貿込業

ヤマカ合資商會

サントス市

マルチン・アフォンソ街四十一番

前田

セントラル一九七三番

班鳩平次

斯波南里

第四席

長兵衛のすりの事

民「へ、何うも有難う存じます」といふのでござりますから、第4性

民「ナア貴方のやうに申

る、別に私は大層物を食べて來

ましたので腹が空いては居りま

せぬ……坊ちやん貴方は如何で

ござりますか」平「俺は金米糖や

水砂糖を食べたのでもう他ノ物

は欲くない」平「じやアお寝みな

されますか」平「ウム寝やう」民

「夫じや私と一緒く臥みませう

自那様、貴方もお寝みな

りましては如何でござります」

平兵「俺も寝ることにしやう、

平次お前も民藏さおとなしく寝

るのだよ」民「イエ坊さは大層

お賢うございますから、其様な

御心配には及びませぬ、左様な

事は平次の手を引張つて臥戸

落とてございますから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございました、櫻木の村

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに

吠え立てる。民藏は此聲を聞き

まして、窓と様子を考へて居り

て居りますが、今は最早武

藏は平次の手を引張つて臥戸

落とてございましたから最早點燈ご

ろでござりますると、世間は寂寥

として居ります、民藏は平次

と共々臥戸に入りまして昏々と

して居ります折柄、戸外の方

でハタ／＼といふ人の足

音が致したと思ふと犬が頻りに